

小児科

1. スタッフ（平成28年4月1日現在）

			(専門)
科 長(教 授)	山形 崇倫	神経	
副 科 長(教 授)	小坂 仁	神経	
副 科 長(教 授)	田島 敏広	内分泌代謝	
外来 医長(講 師)	金井 孝裕	腎臓	
病棟 医長(講 師)	小高 淳	腎臓	
病棟 医長(准 教授)	熊谷 秀規	消化器・肝臓	
医 員(学内教授)	森本 哲	血液・腫瘍・免疫	
	河野 由美	新生児	
(准 教授)	南 孝臣	循環器	
	矢田ゆかり	新生児	
(講 師)	佐藤 智幸	循環器	
	田村 大輔	感染症	
(学内講師)	横山 孝二	消化器・肝臓	
(助 教)	青柳 順	腎臓	
	長嶋 雅子	神経	
	早瀬 朋美	血液・腫瘍・免疫	
	翁 由紀子	血液・腫瘍・免疫	
	松本 歩	神経	
	乗島 真理	リハビリ・神経	
	鈴木 由芽	新生児	
	俣野 美雪	新生児	
	松原 大輔	循環器	
	川原 勇太	血液・腫瘍・免疫	
病院助教	佐藤 優子	喘息・アレルギー	
	池田 尚広	神経	
	下澤 弘憲	新生児	
	山崎 雅世	内分泌代謝	
	岡 健介	循環器	
	植田 綾子	神経	
	鈴木 峻	循環器	
	山岸 裕和	神経	
	今川 智之	消化器・肝臓	
	田中 大輔	血液・腫瘍・免疫	
	渡邊 知佳		
	小林 瑞	神経	
シニアレジデント	12名		

2. 診療科の特徴

当科は小児の総合診療および多岐にわたる専門診療（神経、心臓、肝臓・消化器、腎臓、内分泌・代謝、血液・腫瘍、膠原病、喘息・アレルギー、遺伝、新生児、心理）を担当しており、子ども医療センター内で他科の専門外来と連携をとって診療にあたっている。また、救急医療では地域医療機関と連携して、三次救急医療の重

要な役割を果たしている。

病棟は急性期病棟、慢性期病棟、周産期センター新生児集中治療部門にわかれ、それぞれ38床、38床、36床の計112床のベッド数を有しており、必要に応じて小児集中治療室での治療も行う。子どもと家族のニーズに応じた包括的な小児医療と、幅広い分野の専門性の高い検査や治療などの高度な医療を提供しており、2015年度にはAADC欠損症の遺伝子治療を実施した。

・関連領域専門医認定施設

日本小児科学会専門医研修施設（支援施設）
 日本小児神経学会 小児神経専門医研修認定施設
 日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医制度認定研修施設
 日本てんかん学会 てんかん専門医認定研修施設
 日本小児循環器学会 小児循環器専門医修練施設
 日本小児血液・がん学会 小児血液・がん専門医研修施設
 日本周産期・新生児医学会基幹認定施設
 日本血液学会研修指定施設*病院全体

・認定医

日本小児科学会小児科認定指導医
 山形 崇倫 他7名
 日本小児科学会小児科専門医 山形 崇倫 他54名
 日本小児神経学会認定小児神経科専門医
 山形 崇倫 他5名
 日本てんかん学会認定臨床指導医
 山形 崇倫、小坂 仁
 日本人類遺伝学会臨床遺伝指導医・専門医
 山形 崇倫、田島 敏弘
 日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医
 野崎 靖之
 日本小児循環器学会専門医 南 孝臣 他3名
 日本臨床腎移植学会認定医 金井 孝裕
 日本腎臓学会腎臓専門医
 金井 孝裕、小高 淳
 日本透析医学会専門医 金井 孝裕
 日本内分泌学会内分泌代謝（小児科）指導医
 田島 敏弘
 日本内分泌学会内分泌代謝（小児科）専門医
 田島 敏弘
 日本消化管学会 胃腸科認定医 熊谷 秀規
 日本消化管学会 胃腸科専門医 熊谷 秀規
 日本小児栄養消化器肝臓学会
 熊谷 秀樹、横山 孝二
 日本周産期・新生児医学会指導医
 矢田ゆかり

日本周産期・新生児医学会専門医
 矢田ゆかり 他2名
 PALS Provider 門田 行史 他11名
 日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法「専門」コース
 スインストラクター 矢田ゆかり 他5名
 日本血液学会指導医 森本 哲
 日本血液学会専門医 森本 哲 他2名
 日本造血細胞移植学会認定医 森本 哲
 日本小児血液・がん学会 小児血液・がん指導医
 森本 哲
 日本小児血液・がん学会 小児血液・がん専門医
 森本 哲
 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
 中村 幸恵
 日本アレルギー学会アレルギー専門医
 佐藤 優子
 日本医師会認定産業医 南 孝臣 他4名

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

とちぎ子ども医療センターの1年間の小児科総合診療部、専門診療部および入院診療実績について報告する。なお周産期母子総合医療センターのNICUについても一部併記する。

3-1. 外来診療

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数 2,958 人
 再来患者数 38,303 人
 外来患者延べ数 41,261 人
 紹介率 57.7 %

2) 小児科総合診療部外来

医師：山形 崇倫(部科長・兼)、小坂 仁(副科長・兼)、森本 哲(兼)、南 孝臣(外来医長・兼)、熊谷 秀規(兼)、金井 孝裕(兼)、長嶋 雅子(兼)、佐藤 優子(兼)、植田 綾子(兼)、山崎 雅代(兼)

診療実績：

総合診療部では、午前中の総合診療部外来と午後の急患対応を行っている。小児科専門医がそれぞれの専門診療部と兼務で診療を行っている。原則として初診は紹介受診のみとしている。近年、不定愁訴を主訴とした、不登校の受診者数は著明に増加しているのは、特記すべき事項である。

小児科の診療では常に総合的判断を必要とするため、総合診療部で問題を把握し、適切な初期治療、あるいは検査を実施し、必要に応じて、病棟や各専門診療部に振り分ける場合と、総合診療部外来で診療後、地域かかりつけ医に、逆紹介する場合がある。

1月	2月	3月	4月	5月	6月
805 (888)	722 (873)	915 (1002)	854 (780)	729 (795)	875 (762)
7月	8月	9月	10月	11月	12月
984 (927)	979 (857)	864 (764)	933 (875)	908 (806)	852 (856)

合計患者数 10,420 (10,185) 人 () 内は2014年

3) 小児神経外来

医師：山形 崇倫、小坂 仁、門田 行史、長嶋 雅子、宮内 彰彦、栗島 真理、小島 華林、松本 歩

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
768	751	961	973	652	978
7月	8月	9月	10月	11月	12月
867	1060	819	795	822	857

年間総受診数10,303人

主な診療対象：

複数の疾患を持つ例が多いため、主要疾患の1か月受診者数の概数を記載する。てんかん 400-500人、脳性麻痺や脳炎等による痙性麻痺 100-150人、自閉症スペクトラム障害、知的障害、学習障害や注意欠陥多動性障害等の発達障害400-500人、先天代謝異常症 約20人、染色体異常や中枢神経形成異常 約70人、神経皮膚症候群 20-30人、筋ジストロフィー、重症筋無力症などの神経筋疾患 30-40人、白質脳症、脊髄小脳変性症などの神経変性疾患 4-5人、チック障害、吃音、頭痛等 30-40人であった。この他、人工呼吸器外来において、35人の在宅人工呼吸器患者を診療している。

4) 遺伝外来

医師：野崎 靖之、松本 歩

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
22	33	39	32	34	36
7月	8月	9月	10月	11月	12月
36	41	33	40	35	43

年間総受診数 424人

主な診療対象：

Down症候群、染色体異常症候群、Marfan症候群、Williams症候群などの先天奇形症候群。なお、染色体異常、遺伝性疾患は、神経外来に通院している患者も多い。

5) 小児循環器外来

医師：南 孝臣、片岡 功一、佐藤 智幸、横溝 亜希子、岡 健介、白石 裕比湖、菊池 豊

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
302	274	395	343	323	352

7月	8月	9月	10月	11月	12月
375	363	366	360	338	345

年間総受診数 4,136人

主な診療対象：

先天性心疾患（心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、完全大血管転位症、Fallot 四徴症、完全大血管転位症、肺動脈閉鎖症など）の術前と術後、川崎病、不整脈、心筋症、心雑音の精査などを中心に外来診療している。

6) 小児腎臓外来

医師：金井 孝裕、伊東 岳峰、小高 淳、齋藤 貴志、青柳 順、別井 広幸

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
191	172	207	179	187	174
7月	8月	9月	10月	11月	12月
209	208	205	220	186	223

年間総受診数 2,361人

主な診療対象：

小児特発性ステロイド感受性ネフローゼ症候群；60～70名、IgA腎症；40～50名、膜性増殖性糸球体腎炎；5名、ループス腎炎；7名、巣状糸球体硬化症；8名、膜性腎症；3～5名、Alport症候群；5名、腹膜透析；4名、その他、低形成腎、嚢胞腎、尿細管アシドーシス、慢性腎不全（腎移植後の症例を含む）などを診療している。

外来の特色：

急性血液浄化療法から、維持透析療法・生体腎移植前後の管理まで、ほぼ小児腎疾患のすべてを守備範囲としている。また、他の小児専門診療科からの依頼を受けて、血漿交換療法やG-CAPなどの体外循環療法も行っている。院外との連携では県内はもとより、群馬・埼玉・茨城・福島などからも、紹介を受けている。

7) 小児内分泌・代謝外来

医師：杉江 秀夫、田島 敏広、横山 孝二、小熊 真紀子、山崎 雅世

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
130	129	136	123	95	137
7月	8月	9月	10月	11月	12月
120	154	95	104	123	121

年間総受診数 1,467人

主な診療対象：

新生児マススクリーニング検査の2次精密検査、先天性代謝異常症（OTC欠損症、脂肪酸代謝異常症、糖原病、代謝性ミオパチーなど）、高コレステロール血症、糖尿病などの代謝性疾患、および成長ホルモン分泌不全性低身長、副腎過形成、甲状腺機能低下症、バセドウ病、思

春期早発症などの内分泌疾患が主体である。

また下垂体近傍の腫瘍摘除、あるいは放射線治療後の内分泌障害にも対応している。

8) 小児消化器・肝臓外来

医師：桃谷孝之、熊谷秀規、横山孝二、今川智之

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
125	113	170	134	97	152
7月	8月	9月	10月	11月	12月
113	169	127	140	130	137

年間総受診数 1,607人

主な診療対象：

炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）、腸管ペーチェット病、胃・十二指腸潰瘍、ヘリコバクターピロリ感染症（除菌療法を含む）、粘膜脱症候群、若年性ポリープ、機能的胃腸障害（機能的ディスペプシア、過敏性腸症候群など）、B型・C型ウイルス性肝炎（キャリア、インターフェロン療法、母子感染予防措置）、胆道閉鎖症（術後を含む）、肝内胆汁うっ滞症（Alagille症候群、症候性肝内胆管減少症、原発性硬化性胆管炎など）、肝硬変（胆道閉鎖症術後、COACH症候群など）、慢性肝炎、急性肝炎（CMV肝炎、EBV肝炎、TTV肝炎など）、脂肪肝疾患（非アルコール性脂肪肝炎、非アルコール性脂肪肝疾患）、肥満症、代謝性肝疾患（Wilson病、NICCDなど）、胆石症、急性膵炎などの診断や内科的治療を行っている。難治性潰瘍性大腸炎の症例に対して、糞便細胞移植を実施した。

急性虫垂炎、Hirschsprung病、メッケル憩室、肥厚性幽門狭窄症、胃食道逆流症、胆道閉鎖症などの外科的疾患、経皮的または腹腔鏡下肝生検、上部・下部消化管内視鏡および小腸内視鏡検査や内視鏡治療に関しては、麻酔科、小児外科、移植外科、消化器内科と連携を取りながら診療を行った。

9) 新生児フォローアップ・シナジス外来

医師：河野 由美、矢田 ゆかり、俣野 美雪、鈴木 由芽、下澤 弘憲、本間 洋子

診療実績：

新生児フォローアップ

1月	2月	3月	4月	5月	6月
175	167	178	168	170	183
7月	8月	9月	10月	11月	12月
202	181	164	189	183	172

年間総受診数 2,141人

シナジス外来

1月	2月	3月	4月	5月	6月
23	20	24	—	—	—
7月	8月	9月	10月	11月	12月
—	—	19	19	22	30

年間総受診数 157人

主な診療対象：

新生児フォローアップ外来は、NICU退院児を対象として、退院後2週間から小学校3年生まで長期フォローアップを行っている。診療内容は成長・発達の評価とともに合併症の治療や精査、必要な養育支援である。気管切開、在宅酸素療法や経管栄養などの在宅医療を必要とする児も多い。外科系診療科、心理、リハビリテーション部門と連携して包括的な診療を行っている。新生児難聴スクリーニングの精査・フォローもしている。新生児外来の他に冬期に行われるRSV重症化予防のために別枠で設置したシナジス外来でもパブリズマブを接種した。

10) 小児血液・腫瘍外来

医師：森本 哲、早瀬 朋美、翁 由紀子、川原 勇太、新島 瞳

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
167	130	187	140	118	123
7月	8月	9月	10月	11月	12月
157	190	152	130	111	129

年間総受診数 1,734人

主な診療対象：

急性リンパ性白血病（ALL）や急性骨髄性白血病（AML）、若年性骨髄単球性白血病、悪性リンパ腫、慢性骨髄性白血病などの血液腫瘍疾患、神経芽細胞腫（NBoma）や腎芽腫、肝芽腫、網膜芽腫、脳腫瘍などの悪性固形腫瘍、ランゲルハンス細胞組織球症（LCH）や血球貪食性リンパ組織球症（HLH）の組織球症、血友病や特発性血小板減少性紫斑病、遺伝性血栓症などの凝固系疾患、再生不良性貧血や遺伝性球状赤血球症、サラセミアなどの赤血球系疾患、慢性良好好中球減少症や重症複合型免疫不全、慢性GVHDなどの白血球・免疫疾患。

2015年の新規腫瘍性疾患は、ALL 4例、悪性リンパ腫 3例、AML 2例、LCH 2例、横紋筋肉腫 3例、滑膜肉腫 1例、脳腫瘍 3例、胚細胞腫瘍 1例であった。

11) 小児がん経験者の長期フォローアップ外来

医師：森本 哲

診療実績

1月	2月	3月	4月	5月	6月
0	2	4	5	4	2
7月	8月	9月	10月	11月	12月
3	10	5	1	1	0

年間受診者数 37人

主な対象疾患：

小児期に、白血病などの血液腫瘍性疾患、神経芽腫などの固形腫瘍に対して、化学療法や放射線療法を受けた、18歳以上の患者。

12) 子ども化学療法外来

医師：森本 哲、熊谷 秀規、横山 孝二、早瀬 朋美、川原 勇太

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
28	25	33	34	33	38
7月	8月	9月	10月	11月	12月
37	34	33	34	28	35

年間受診者数 392人

2015年より外来日が火曜午前と木曜午後、金曜午後の3枠となった。

主な対象疾患：

ALL やLCHの維持療法、脳腫瘍などのイリノテカン/テモゾロミド療法、JIAや炎症性腸疾患などのトシリズマブやインフリキシマブ療法

13) 喘息・アレルギー外来

医師：熊谷 秀規、佐藤 優子

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
129	117	137	121	94	143
7月	8月	9月	10月	11月	12月
112	113	108	114	99	124

年間受診数 1,411人

主な診療対象：

食物アレルギー、アナフィラキシー、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、乳児消化管アレルギー、薬物アレルギー、蜂アレルギー、化学物質過敏症など

*食物アレルギー、アナフィラキシー

原因食物の特定や除去食導入を行い、栄養指導や薬物療法、誤食予防の指導を行っている。アナフィラキシーを合併する症例については、エピペン®（アドレナリン自己注射）の導入を行い、家庭や学校・園における食事指導と緊急時対応の調整を行っている。診断および耐性獲得確認のため、食物負荷試験を随時行っている。

*気管支喘息、乳児喘息、運動誘発喘息

中等症および重症持続型の患児が大半を占める。心疾患や神経疾患など基礎疾患をもつ児も多く、他の専門外来と連携をとり診療している。

14) 小児免疫外来

医師：森本 哲、早瀬 朋美、川原 勇太

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
91	81	108	104	99	84
7月	8月	9月	10月	11月	12月
119	97	99	111	91	110

年間総受診者数 1,194人

2015年より外来日が木曜午後と金曜午後の2枠となった。

主な診療対象：

若年性特発性関節炎（JIA）、全身性エリテマトーデス（SLE）、シェーグレン症候群（SJS）、若年性皮膚筋炎（JDM）など。

2015年の主な新規症例は、JIA 7例、SLE 1例、新生児ループス 1例、JMD 1例、Bechet症候群 1例であった。

15) 胎児心エコー外来

医師：片岡功一

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
7	2	7	4	4	4
7月	8月	9月	10月	11月	12月
8	6	7	7	6	9

年間総受診数71人

主な診療対象：

胎児の左心低形成症候群、三尖弁閉鎖症、両大血管右室起始症、Fallot 四徴症、完全大血管転位症、多脾症候群、心臓腫瘍、不整脈など。

その他：院内産科あるいは産科開業医から紹介された、胎児に先天性心疾患や不整脈を持つ妊婦において、胎児心エコー図検査による出生前診断を実施した。

16) 1ヵ月健診

乳児健診は原則当院産科から退院した生後1ヶ月児の健診を行っている。また新生児マスキングの結果を外来で家族に説明している。（ ）内は2014年

1月	2月	3月	4月	5月	6月
80(101)	60(58)	94(73)	55(83)	71(61)	72(64)
7月	8月	9月	10月	11月	12月
49(90)	63(68)	82(86)	74(72)	62(64)	63(101)

年間総受診数 825 (921) 人

17) 夜間・休日診療

診療実績：夜間、休日に受診し、小児科医が診療した患者数

1月	2月	3月	4月	5月	6月
338	196	227	237	311	222
7月	8月	9月	10月	11月	12月
268	237	276	204	257	273

年間総数 3,046人

18) 心理検査・心理面接

臨床心理士：星子 真美、氏家 莉沙、村上 瑠璃、田所まり子、大槻絵理子、大森 有美子

診療実績：

心理検査件数

*総検査数（ ）内は新生児検査

1月	2月	3月	4月	5月	6月
26(13)	20(11)	22(6)	24(8)	25(10)	32(16)
7月	8月	9月	10月	11月	12月
30(16)	37(18)	21(8)	27(19)	36(18)	31(15)

年間総検査件数 331 (158)

心理面接件数

*総面接数（ ）内は新規面接

1月	2月	3月	4月	5月	6月
72(5)	67(3)	83(4)	63(5)	66(8)	90(4)
7月	8月	9月	10月	11月	12月
79(5)	84(6)	75(4)	80(6)	75(7)	87(3)

年間総面接件数 921 (60)

主な対象：

検査内容は、主に神経外来から知能・発達検査、新生児外来から極低出生体重児のフォローアップ目的で発達検査の依頼があった。また、各外科系診療科から手術前後での知的能力の評価や、治療上必要な手技獲得の指導の目安とすること等を目的に検査が依頼される事例も増加傾向にある。心理面接は、身体表現性障害や発達障害、それに伴う不登校状態についての相談や心理療法の依頼が主である。また、入院している患児・家族への心理的ケアの依頼が増加傾向にある。患児に関わる医療スタッフや学校等地域機関との連携にも努めた。患児の状況に応じてより適切な相談機関等の紹介も行っている。

3-2. 小児科入院診療

小児科は主として2A病棟と4A病棟で診療し、重症児については小児集中治療室（PICU）で集中治療を行っている。また、総合周産期母子医療センター（NICU、GCU）で新生児の診療を行っている。

1) 小児科の月別新入院患者数（総合周産期母子医療センターを除く）

1月	2月	3月	4月	5月	6月
82	74	83	77	87	75
7月	8月	9月	10月	11月	12月
90	86	88	73	89	85

総計年間入院患者数 989人

2) 入院患者の疾患別内訳（人数；小児科退院患者大分類別疾病統計（ICD-10ベース）、総合周産期母子医療センターを除く）

章	章名称	ICD	件数		在院日数		平均在院日数
1	感染症及び寄生虫症	A00-B99	49	5.0%	422	2.2%	8.6
2	新生物	C00-D48	54	5.5%	3925	20.0%	72.7
3	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	D50-D89	27	2.7%	609	3.1%	22.3

4	内分泌、栄養及び代謝疾患	E00-E90	59	6.0%	986	5.0%	16.7
5	精神及び行動の障害	F00-F99	7	0.7%	59	0.3%	8.4
6	神経系の疾患	G00-G99	88	8.9%	1911	9.8%	21.7
7	眼及び付属器の疾患	H00-H59	1	0.1%	49	0.3%	49
8	耳及び乳様突起の疾患	H60-H95	1	0.1%	6	0.03%	6
9	循環器系の疾患	I00-I99	37	3.7%	799	4.1%	21.6
10	呼吸器系の疾患	J00-J99	251	25.4%	3332	17.0%	13.3
11	消化器系の疾患	K00-K93	51	5.2%	1181	6.0%	23.2
12	皮膚及び皮下組織の疾患	L00-L99	4	0.4%	43	0.2%	10.8
13	筋骨格系及び結合組織の疾患	M00-M99	33	3.3%	700	3.6%	21.2
14	腎尿路生殖器系の疾患	N00-N99	76	7.7%	1952	10%	25.7
16	周産期に発生した病態	P00-P96	9	0.9%	127	0.6%	14.1
17	先天奇形、変形及び染色体異常	Q00-Q99	145	14.7%	2023	10.3%	14.0
18	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	R00-R99	77	7.8%	1133	5.8%	14.7
19	損傷、中毒及びその他の外因の影響	S00-T98	14	1.4%	298	1.5%	21.3
20	傷病及び死亡の外因	V00-Y98	0	0.0%	0	0.0%	0.0
21	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	Z00-Z99	3	0.3%	23	0.1%	7.7
99	分類不能		3	0.3%	13	0.07%	4.3
総計			989		19591		19.8

3) 新生児集中治療部 (NICU) の入院実績

1) 年間入院患者数

432名(再転科・転入14名を除く)。院内出生392名(初診時から外来観察72名、母体搬送31名、母体外来紹介289名)、院外出生40名(病院等からの搬送36名、妊婦健診未受診妊婦からの出生4名)。

2) 人工呼吸器管理数・率

122例/432例、28.7%。

3) 生存率・死亡数など

出生体重 (BW) 別、在胎週数 (GA) 別入院数および死亡数を示す。

GA (W)	入院	生存	死亡	生存率 (%)
22	-	-	-	-
23	2	2	0	100.0
24	4	4	0	100.0
25	3	2	1	66.7
26	3	3	0	100.0
27	4	4	0	100.0

28	6	6	0	100.0
29	3	3	0	100.0
30	11	11	0	100.0
31	12	12	0	100.0
32	16	15	1	93.8
33	17	17	0	100.0
34	26	25	1	96.2
35	17	17	0	100.0
36	27	26	1	96.3
37以上	281	279	2	99.3
計	432	426	6	98.6

BW (g)	入院	生存	死亡	生存率 (%)
<500	2	1	1	50.0
<1000	21	21	0	100.0
<1500	33	31	2	93.9
<2000	58	56	2	96.6
<2500	75	75	0	100.0
>2500	243	242	1	99.6
計	432	426	6	98.6

4) 死亡症例内訳

在胎40週	低出生体重児、18トリソミー、心室中隔欠損、心房中隔欠損
在胎36週	極低出生体重児、18トリソミー、心室中隔欠損、心房中隔欠損
在胎32週	極低出生体重児、重症仮死、18トリソミー、食道閉鎖、心室中隔欠損
在胎41週	低出生体重児、18トリソミー、Fallot四徴
在胎25週	超低出生体重児 (334g)、重症仮死
在胎34週	非免疫性胎児水腫、肺形成不全、多発関節拘縮

5) 先天性心疾患児入院例

有意な血行動態異常を呈する中等症・重症例34例。PICU転科22例、NICUから退院8例、NICU内死亡4例。

6) 多胎入院数

80名 (18.5%)。

7) 外科症例数 (手術例のみ)

のべ27例。他に光凝固2例。

8) 他院への搬送

8例。いずれも状態安定後に搬送元等の病院に転院。

3-3. 主な検査・特殊治療

1) 心臓カテーテル検査

心臓カテーテル検査の総数は141件 (カテーテル治療54件、カテーテルアブレーション4件、成人症例15例)であった。カテーテルアブレーション、成人症例は循環器内科と合同で検査、治療を行った。対象疾患は、心室中隔欠損26件、心房中隔欠損21件、ファロー四徴症13件、両大血管右室起始症7件、房室中隔欠損症6件、三尖弁閉鎖6件、左心低形成症候群 (亜型含む) 5件、純型肺動脈閉鎖5件、単心室 (機能的含む) 12件、完全

大血管転位症 7 件、動脈管開存症 8 件、川崎病 5 件、不整脈 6 件、その他（大動脈弓離断、肺動脈弁狭窄、大動脈弁狭窄、肥大型心筋症、BWG 症候群、冠動脈右室瘻、肺動静脈瘻、エプスタイン奇形、収縮性心膜炎）14 件であった。カテーテル治療 54 件の内訳は、バルーン血管形成術 20 件、血管塞栓術（コイル、AVP）8 件、心房中隔欠損閉鎖術（ASO）13 件、動脈管閉鎖術 8 件（ADO 5 件）、バルーン弁形成術 3 件、心房中隔裂開術 2 件であった。

2) 心臓超音波検査

スクリーニングを含め、2207 件施行している。

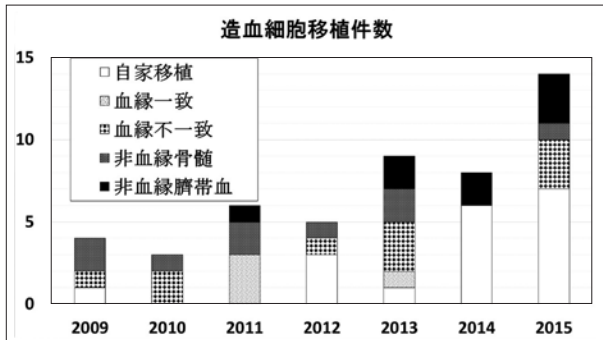
3) 腎生検

34 件施行した（開放腎生検を含む）。

4) 造血細胞移植

造血細胞移植を 14 回行った。内訳は、AML 1 回（不一致血縁）、ALL 3 回（非血縁臍帯血 2、非血縁骨髄 1）、リンパ腫 1 回（不一致血縁）、免疫不全 1 回（不一致血縁）、NBoma 2 回（非血縁臍帯血 1、自家末梢血 1）、脳腫瘍 4 回（自家末梢血）、Ewing 肉腫 1 回（自家末梢血）、肝芽腫 1 回（自家末梢血）であった。

2009 年以降に当科で造血細胞移植を受けた患者の初回移植後 3 年の生存率（2015/12/31 時点）
 同種移植（腫瘍性疾患）(N=18) 75.6% (95%CI, 49.3-100)
 同種移植（非腫瘍性疾患）(N=6) 80.0% (95%CI, 44.9-100)
 自家移植（腫瘍性疾患）(N=9) 100% (95%CI, 100-100)



5) 消化器・肝臓系検査

検査実績

A) 消化管系		件数
上部消化管内視鏡検査		17
下部消化管内視鏡検査		29
小腸内視鏡検査		
ダブルバルーン法		4
カプセル内視鏡		1
内視鏡的逆行性膵胆造影		2

B) 肝・胆道系		件数
経皮肝生検		2

3-4. 小児科カンファレンス

毎週月曜日、火曜日、水曜日、金曜日の朝に新入院患者の紹介と討議、水曜午後の総回診で入院患者の病状報告と討議を行った。

小児科における症例検討会（CC）は毎週木曜日 18 時からカンファレンス室で入院例を中心に検討した。以下症例検討会のテーマと担当を示す。

日時	テーマ	担当
1 月 22 日	RSV 感染を契機に診断に至った重複大動脈弓の 1 例	若林、山岸（佑）、青柳、井上、今川、黒岩
1 月 29 日	酸素化不良肺炎で来院した重症 Guillan-Barre 症候群の 1 例	安済、黒崎、松本、別井
2 月 12 日	心膜炎再燃に対しコルヒチンが有効であった Sotos 症候群の 1 例	田畑、尾崎、小林、長嶋
2 月 26 日	小児のリハビリ	黒淵（作業療法士）
	学会報告（第 11 回国際川崎病シンポジウム、Honolulu, Hawaii, 2015 年 2 月 3 ~ 6 日）	安済、岡
3 月 5 日	生後 3 か月で診断された Niemann-Pick 病 C 型の 1 例	柴原、小太刀、中野、宮内
3 月 12 日	A K I を来し、腹膜透析を必要とした新生児消化管アレルギーの 1 例	安済、佐藤（直）、黒崎、松本、別井
4 月 30 日	治療に難渋している 2 歳児に発症した潰瘍性大腸炎の女児	今川、青柳
5 月 28 日	EBV 関連リンパ増殖性疾患で発症した hypomorphic ZAP70 変異例	和田、川原
6 月 4 日	新生児領域呼吸管理法のトピック	下澤
6 月 11 日	難治性てんかんと退行を示した MECP2 重複症候群の兄弟例	長嶋、植田、若林、小川、宮内、安済、橋本、小島
6 月 25 日	慢性心不全の診断と治療～心不全治療における補助人工心臓・再生医療の話題～	佐藤（智）、岡、松原、斗澤
7 月 2 日	内科的治療抵抗性の巣状分節性糸球体硬化症の一例	渡邊、石渡、鈴木（美）、今川、青柳
7 月 9 日	消化管粘膜病変を呈した不明熱の 4 歳男児	小川、植田、若林、長嶋
7 月 16 日	2015 年前半 まとめ	
9 月 10 日	AADC 欠損症に対する遺伝子治療 2 例の報告及び振り返り	宮内、小島、安済、粕谷

9月24日	熱源不明の炎症反応高値と意識障害を反復する女児例	2A病棟
10月1日	尿細管障害による電解質異常・高Ca血症低Ca尿症があり、高脂血症と炎症反応の増悪を繰り返す女児例	甲賀、伊東、鈴木(峻)、任、片岡(理)
10月8日	当科における10年間のHBV母子感染予防措置まとめ-Occult HBV infectionの3例-	横山
10月22日	LCH up to date	森本
10月29日	生体肝移植を必要とする重症メチルマロン酸血症	安済、中村(久)、小島、宮内
11月5日	未熟児無呼吸発作の治療戦略	俣野
11月12日	フォロー四徴症術後に発症した糖尿病を契機に診断された腓胝体尾部欠損症の1例	佐藤(友)、岡、松原、佐藤(智)
11月26日	難治頻回部分発作重積型急性脳炎の一症例	若林、平田、鈴木(峻)、栗島
12月3日	多発血管奇形を合併したAlagille症候群の1例(腎血管性高血圧に対する治療戦略)	横山
12月10日	2015年後半 まとめの会	

究に基づく高度な医療を提供する。来年の目標として、①小児科専門診療部門各領域における小児高度医療の推進、難治性疾患の治療成績の更なる向上、②重症児、慢性疾患児の診療や小児救急医療における地域医療機関とネットワークの構築、③小児科医育成の継続、を掲げる。

3-5. キャンサーボード

1) 小児緩和ケアカンファランス

患者とその家族のQOL向上を目指し、医師、看護師、心理士、理学療法士、養護教諭、地域医療連携部などの多種職による「小児緩和ケアチーム」のカンファランスを開催した。

1月	2月	3月	4月	5月	6月
2	2	2	2	2	2
7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	1	2	2	2	2

年間総開催数22回

2) 小児腫瘍カンファランス

腫瘍性疾患の集学的治療のため、小児血液腫瘍チーム、小児放射線診断部、外科系各科(小児外科、小児脳外科、小児泌尿器科、歯科口腔外科、形成外科など)と腫瘍カンファランスを開催した。

1月	2月	3月	4月	5月	6月
1回	3回	1回	0回	1回	2回
7月	8月	9月	10月	11月	12月
0回	0回	0回	1回	2回	1回

年間総開催数12回

4. 来年の目標・事業計画

とちぎ子ども医療センター小児科は、小児科疾患の診療のみならず、同センター内、附属病院内のあらゆる診療部門と連携し、小児の全ての疾患領域に対して臨床研